



Design your own road

WHILL株式会社

〒230-0045 横浜市鶴見区末広町1-1-40 横浜市産学共同研究センター実験棟F区画

電話：045-633-1471 FAX：045-633-1472 メール：info@whill.jp



WHILLの月刊誌

WHILL MAGAZINE

2016 OCT. 10



WHILL



お客さまインタビュー

KATSUYOSHI FUJITA

VOLUME. 12

藤田勝良さん

歩いて見える景色を、 久しぶりに楽しめました。

WHILLでガーデニングや外出を楽しんでいる藤田様。
2016年6月に兵庫県で初めての
補装具制度の支給を受けてWHILLを購入されました。

なぜWHILLを選んだのか

15年くらい前から進行性の病気で歩行が難しくなっていました。最初の頃は杖や伝え歩きでしたが、5年くらい前から車椅子に乗るようになりました。外出時に、常に妻に介助してもらうのも申し訳なくなったので、自分で移動できる電動車椅子を探していた所、インターネットで偶然WHILLを見つけました。そのデザインに従来のものとは全く違うことに衝撃を覚えて、それからはYoutubeなどいろいろ調べましたね。近くのメガネの三城で試乗が出来ると知り、早速行って乗ってみました。店員の方にもとてもよくしていただき、購入を決意しました。結局他の電動車椅子やカートなどは試さなかったですね。

WHILLの気に入ってるどころ

小回りが効いて、砂利でもしっかり走れるところがとてもいいです。玄関に保管しているのですが、その場で回転して出ることが出来るし、ガーデニングのために、庭の芝生や砂利があるところでも行けるのはとても便利です。あとやはりデザインもとても気に入っていますね。乗っていて自慢したくなります。(笑)



WHILLが来て大きく変わったこと

外に行こうという意欲が持てるようになりました。そもそもあまり外に出るタイプではなかったのですが、歩行が難しくなって、より外出することが少なくなっていました。WHILLを使うようになってからは、JAにお金をおろしに行ったり、役場に選挙の期日前投票に行ったり、庭で出て木の剪定をしたり、家族に心配されるくらい一人で外出するようになりました。(笑)



久しぶりに外出すると、道端のイチヂクの実がつけている事に気づいたり、裏庭の昔植えた柿の木がびっくりするくらい成長している事に気づいたり、昔歩いていた頃に見ていた何気ない景色がとても新鮮にみえました。長い間、外に行けなかったんだと気づかされました。夏に庭の桃の木の接ぎ木をしたので、数年後に実をつけることを楽しみにしています。



WHILLの中の人

RYU SHUDO

WHILL創業のきっかけをつくった、
尊敬する人のアイデンティティを受け継ぐ。
そのために私は今WHILLにいます。 首藤龍(しゅどうりゅう)



エンジニアの首藤は、前職で陸上競技やテニス用の車いすのトップアスリートも使用している高機能でデザイン性の優れた車いすで有名な車いすメーカーのオーエックスエンジニアリングで働いていました。

2011年の11月、WHILLが初めて東京モーターショーに電動車いすのプロトタイプを出展した時、オーエックスエンジニアリングの石井社長が観にいきました。当時からWHILLは斬新なコンセプトモデルを発表していました。ただ、市販化の予定はなかったため、石井社長はWHILLの創業メンバーに「プロトタイプで期待をさせておいて、商品化しないのはユーザーに夢を見させるだけだ。だとしたら、今すぐやめなさい。」と忠告したそうです。実は石井社長は車いすメーカーの社長というだけでなく、実際に車いすユーザーとして日常生活をしていました。WHILLの創業メンバーはその時の言葉が強く響き、翌年にWHILLを創業して本格的に量産を目指した開発を始めました。石井社長はまさにWHILLの誕生にきっかけを与えた人です。前職では競技用車いすの開発部署で個別の最適化を目指してユーザーと共にモノづくりをしていました。そのため、やりがいがあったのですが、社長が亡くなって色々と考えました。もとも

と社長のそばで働きたくて入社しましたから。これからどのようにして社長のアイデンティティを受け継いでいけるかを真剣に考えていた時、尊敬する人の一言が生み出した会社に行こうと。石井社長は私に「モノづくりは否定から生まれる。肯定されているうちは良いモノはできない。否定されて初めてモノは意味を持つ」と仰っていました。WHILLに創業のきっかけを与えられている方はWHILLに可能性を感じ、厳しい言葉を言ったんだと思います。その言葉を信じてWHILLを必要とするすべての人に届けたいと強く思いました。

自分が大事にしていることは、人の気持ちになってモノをつくる、ということですね。ユーザーがどのような生活を送るのか、お客様と話し、いかにその思いを引き出せるか。そして自分が当事者となった場合、どう感じるのかを大切にしています。前職で担当した車いすはユーザーに合わせた人馬一体のカスタマイズ製品でした。使う人がより快適に使えるように、妥協することなく追求していく姿勢はその時に学びました。WHILLも同じです。一人一人乗る人の抱えている課題は異なります。それに合わせた対応を丁寧にしていく仕組みをつくっていくと同時に、乗りたいと思ってもらえるかっこよさの追求も忘れずに行きたいですね。人に本当に使ってもらうためにはどうしたらいいか、人間中心のモノづくりをとことん追求していきたいですね。まだ「車いす」というと乗る側も、そしてそれを日常で見る側もネガティブな印象を持つ方もいると思います。ですが、WHILLを通してその壁を越えて、ポジティブものにして、一人でも多くの方がアクティブに生活を楽しめる世界にしていきたいです。そして尊敬する人の思いをこれからも受け継ぎ、WHILLに思いを込めていきたいです。

